平成28年度全学統一入学試験問題

国　　語【看護学部】

（2月3日）

開始時刻　午後1時00分
終了時刻　午後2時00分

※　数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意事項

1. **試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。**
2. この冊子は26ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. **国語か数学のどちらか1科目を選択し、該当する解答用紙を切り離して解答してください。2科目とも解答した場合は、すべて無効となります。**

   数　　学　1 ～ 6ページ
   国　　語　1 ～ 20ページ

4. **解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。**

   ①　**受験番号欄**
   受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄に**マーク**してください。**正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。**

   ②　**氏名欄**
   氏名と**フリガナ**を**記入**してください。

5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、［ 10 ］と表示のある問いに対してⓒと解答する場合は、次の(例)のように**解答番号10の解答欄**のⓒに**マーク**してください。

   (例)

10	ⓐ	ⓑ	ⓒ	ⓓ	ⓔ

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一　次の文章を読んで、後の**問一**～**九**に答えなさい。

より困難なのは、「科学によって問うことはできるが、科学によっては答えることができない問題群からなる領域」で、Aトランスサイエンス問題と呼ばれる。A・ワインバーグがトランスサイエンス問題として取り上げたのは一九七二年のことである。本質的に、科学によって完璧に答えが出せる要素還元主義から脱却しなければならない問題群と言える。科学のみに閉じた発想では限界があることが明白であり、現代はそのような問題の解決が迫られているのである。とはいえ、昔から人々は生活の知恵としてトランスサイエンス問題を扱ってきていたのだ。身近な事柄で生じているトランスサイエンスを挙げてみよう。

たとえば、福島の原発事故で専門家がしきりに使った「想定外」という言葉は、原発の設計に地震動の強さや津波の高さへの上限が「想定」されていて、［ X ］との言い訳であった。絶対に壊れない人工物は存在せず（建造することができず）、すべての人工物には安全基準が定められていて、それを満たせば合格となって世の中に流通させることができる。【①】その安全基準は、材料の強度や耐用年数のような科学で測れる要素以外に、その対策のための経費とか手間とかが余りに過大にならないというような条件を考慮して決められている。私はこれを「技術の妥協」と言っているが、完璧から緩めた「妥協」をしなければ技術は現実生活に活かせないのである。このような技術の安全基準をどう決めるか（どう想定するか、どこで妥協するか、どのような条件とするか）はトランスサイエンス問題のテンケイと言える。

ある原子力の専門家はこの基準づくりを「割り切り」と言ったのだが、安全性を考えてあれもこれもと欲張ると原発は設計できない、割り切って省略しなければならない、という意味であった。これは実に正直な発言で、技術は割り切りによって成立していることがよくわかる。【②】実際上、どこで割り切るかが問題となり、Bそれは科学的判断のみで決まるわけではない。事故が起こる可能性を見積もり、その事故が生じる頻度と考えられる被害の程度を秤にかけるのは科学の範疇だが、安全のための裕度（注）をどれくらい持たせるか、事故が起こった場合にどこまで補償の負担ができるかは科学の範囲から外れている。あまりに裕度が小さすぎると安全性に疑問が生じ、高すぎると費用や時間がかかり過ぎるので、それを実行する企業が現れないことになる。事故補償の負担が余りに過大なら、たとえその頻度が小さくても企業は手を出さないだろうし、原発のように事故補償を政府が肩代わりしてくれるなら企業も参画するようになる。技術には実行可能性（どこまで意欲をもって実行しようと考えているか、参加する企業はどこまで責任を負おうとしているか）という、科学とは関係しない現実的配慮をカンアンしなければならないのである。建築の耐震基準や放射線被曝限度量などのように、時代とともに基準が変わってきたのは［ Y ］であり、時代が進むにつれ厳しい基準となってきたのは［ Z ］ものである。科学は絶対基準を示すのだが、技術は相対基準を示すのみなのだ。そのため、技術の妥協レベルは優れてトランスサイエンス問題なのである。

別の種類のトランスサイエンス問題として、「共有地の悲劇」の類の問題もある。誰でもが使える共有地（より一般的には公共物）があると、羊飼いはなるべく多くの羊を飼おうとする。【③】しかし、われもわれもと羊飼いが多く集まり、かつより多くの羊を飼おうとすれば、たちまち共有地は荒れ果てて使い物にならなくなってしまうだろう。これは個人が責めを負うのではなく、みんなの損失である。このような共有物に関わる悲劇は、個人が責めを負わないから罪の意識がなく、損失はみんなが被るから薄められ、なかなか解決しないことが多い。【④】海洋での漁獲（早い者勝ち）とか、温室効果ガスの放出（出しっ放し）とか、空中に漂う人工衛星の残骸（捨てっ放し）とか、どこにも広がる環境ホルモン問題（化学物質の使いっ放し）など、多くの共通する問題があり、今や世界全体の課題となっている。

このような「共有地の悲劇」に絡まる問題について科学ができることは、どこまで規制すれば悲劇をカイヒできるかの目安を示せるだけであって、具体的にどのような方策を採用すべきかについて科学は何も言えない。科学はその問題に対して重要な情報を与えるが、参照事項としてしか機能しないのだ。

共有地の悲劇を解決するためには、共有地でなくしてしまう（私有地にして独占する、または誰も使えないように使用を禁止する）か、それを使いたい人間が集まって悲劇にならないよう何らかの使用協定を結ぶしかない。【⑤】かつては暴力によって共有地でなくしてしまう（一国の領土にする）という不条理な解決法しかなかったが、現代では平和的に交渉によって使用協定を結ぶようになっている。しかし、どのような協定を結ぶべきか、協定が守られているかどうかをどうチェックするか、協定破りがあった場合の対策をどうするか、などについて難航しているのが実情である。実際、世界中で実に多くの国際協定や条約や宣言が採択されてきたが、抜け穴があったり（フロン規制に関するモントリオール議定書）、重要国が参加しなかったり（温室効果ガスの制限に関する京都議定書）、目標を定めただけであったり（環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言）、簡単に脱退できたり（NPT＝核兵器拡散防止条約）など、トランスサイエンス問題に絡む部分で合意ができないために実効性が低くならざるを得ないのである。

さらに私は、「最初から非倫理性を含む科学・技術」もトランスサイエンス問題に含めたいと思っている。原発は、①その大きな潜在的危険性から過疎地に押しつけていること、②ウランという放射性物質を扱うために、採掘・精錬・装填・定期検査・廃棄物処理・廃炉の全過程において携わる作業員に放射線被曝を押しつけていること、③放射性廃棄物を10万年にわたって厳重管理を子孫に押しつけていること、④事故が起これば立地する地域や人々、そして全世界に放射能汚染を押しつけること、という反倫理性を必然的に帯びている。いずれも、多数の人間や強い立場の人間が少数の人間や弱い立場の人間に「押しつける」という形をとっていることが反倫理性を如実に物語っている。そのような反倫理性を最初から帯びている科学なのだから、社会として採用するかどうかは科学以外の要素で決められるのは自明だろう。

たとえば、原爆は人を残酷に殺傷することのみを目的として開発された非倫理的兵器である。だから、誰でもが一応最終的には廃絶されねばならな

いと言うが、当面は核抑止論の立場から核兵器は必要だと主張する。核兵器が存在することによって戦争が抑止されている、というわけだ。科学以外の役割を強調して非倫理的な科学・技術を受け入れようとしているのである。原発も同じで、右に述べたような非倫理性を知っているために、やはり最終的には原子力に依存しない社会にすべきだと誰もが述べるが、経済論理を持ち込んで（温室効果ガスを出さないという屁理屈もつけて）必要だとCすり替えているのだ。いずれも科学以外の論理で本質的な非倫理性を押し隠していると言えよう。

（池内了『科学のこれまで、科学のこれから』による）

（注）　裕度――規定値と試験結果の差のうち許容できる範囲。ここでは事故・災害に対する備えにおける「余裕」といった意味で使われている。

問一　傍線部ア～ウを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔからそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが［ 1 ］、イが［ 2 ］、ウが［ 3 ］。

ア　テンケイ
- ⓐ 信号がテン滅する
- ⓑ 未来へのテン望が開ける
- ⓒ 作文をテン削する
- ⓓ 人生のテン機が訪れる
- ⓔ 確かなテン拠を示す

イ　カンアン
- ⓐ 相手の策略をカンパする
- ⓑ 金をカンジョウする
- ⓒ 裁判所にショウカンされる
- ⓓ 地域のカンシュウに従う
- ⓔ トンネルがカンツウする

ウ　カイヒ
- ⓐ 大臣がヒメンされる
- ⓑ 試合に備えてヒサクを練る
- ⓒ ヒショ地がにぎわう
- ⓓ 国の財政がヒヘイする
- ⓔ ヒキンな例で説明する

問二　傍線部A「トランスサイエンス問題」に**当てはまらないもの**を、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 4 。

ⓐ 最初から非倫理性を含んでいる科学・技術
ⓑ 科学とは直接関係しない実行可能性の問題
ⓒ 共有地の悲劇に絡まる問題
ⓓ 科学技術の安全基準の決め方
ⓔ 科学によって完璧には答えを出せない問題

問三　空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 5 。

ⓐ その「想定」を行った者たちの責任が問われるべきなのだ
ⓑ その「想定」を超えるような事態に備えておかねばならない
ⓒ 自分たちは「想定」をそれなりにきちんと行ってはいたのだ
ⓓ それを超える事態となったのだから自分たちには責任がない
ⓔ その「想定」を行う上での計算の誤りなのだから仕方がない

問四　本文中には次の文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、後のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6 。

それが個人としての利益であり、合理的な選択でもある。

ⓐ 【①】
ⓑ 【②】
ⓒ 【③】
ⓓ 【④】
ⓔ 【⑤】

問五　傍線部B「それは科学的判断のみで決まるわけではない」の説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 7 。

ⓐ それを決めるのは科学者ではなく政治家であるということ。
ⓑ それを決めるには科学以外の安全性への配慮が不可欠だということ。
ⓒ それを決めるのは科学を割り切る技術的な判断であるということ。
ⓓ それを決めるには科学以外の様々な現実的な配慮が必要だということ。
ⓔ それを決めるには科学的な判断に加えて倫理的な判断がいるということ。

問六　空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 8 。

ⓐ 変化する時代の反映
ⓑ 絶対基準がないため
ⓒ 科学の絶対化のため
ⓓ 政府の方針によって
ⓔ 基準が甘かったため

問七　空欄 Z に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 9 。

ⓐ 倫理的要求による
ⓑ 科学の反省による
ⓒ 技術の向上による
ⓓ 政治的判断による
ⓔ 相対的基準による

問八　傍線部C「科学以外の論理で本質的な非倫理性を押し隠している」の説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 10 。

ⓐ 科学ではなく論理学によって、その科学・技術が非倫理的な側面を持っているという事実を巧みにごまかし、それを受け入れさせようとしている、ということ。
ⓑ 科学以外の役割があることを強調することで、その科学・技術が持っている非倫理的な部分を見えないようにして受け入れさせようとしている、ということ。
ⓒ 経済原理などの直接科学と関係のない領域の論理を述べることで、有無を言わさずその科学・技術が持つ非倫理的な側面を受け入れさせようとしている、ということ。
ⓓ 経済原理などの直接科学と関係のない領域での利益を強調することで、科学なるものが本来的に持っている非倫理性を覆い隠そうとしている、ということ。
ⓔ 科学と関係のない領域での利益の大きさは非倫理性を補って余りあるという理屈で、その科学・技術の非倫理性をそのまま受け入れさせようとしている、ということ。

問九　本文における筆者の考え・主張と一致するものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 11 。

ⓐ A・ワインバーグがはじめてトランスサイエンス問題を取り上げてからすでに四〇年以上が経とうとしている現在、要素還元主義の立場に立って科学と技術の力によってトランスサイエンス問題に対する完璧な答えを出していくことで、科学によっては答えることができない問題群からなる領域を少しでも小さくしていくことがわれわれには求められている。
ⓑ 原爆は人を残酷に殺傷することのみを目的として開発された非倫理的兵器であるから、世界中の誰もが最終的には廃絶されなければならないものだと言うが、核兵器が存在することによって戦争が抑止されるということは否定できない真理なのだから、倫理の尊重か抑止という実益かという問題も、きわめて重要なトランスサイエンス問題の一つだと言える。
ⓒ 「妥協」をしなければ技術は現実生活に活かせないのだから、たとえば建築の耐震基準や放射線被曝限度量などの基準が、科学で測れる要素以外の条件を考慮に入れた上で設定された、ある種の妥協の産物であるのは致し方ないことであるが、そのような技術の安全基準をどう定めるかというのは、きわめて重要なトランスサイエンス問題だと言える。
ⓓ かつては戦争という暴力によって共有地を私有地すなわち一国の領土に変えてしまうということも行われていたが、これも大きな意味で共有地の悲劇を解決するための手段であったということを考えれば、それを不条理な解決法として斥(しりぞ)けてしまうのは短絡的であり、われわれにはより広いトランスサイエンス問題への視野を持つことが求められている。
ⓔ 温室効果ガスの制限に関する京都議定書の採択時のように重要国が参加しなかったのでは意味がないので、どのような協定を結ぶべきか、協定が守られているかどうかをどうチェックするか、協定破りがあった場合の対策をどうするかといった問題以前に、まずは共有地を共有している全員に参加させることが、トランスサイエンス問題の解決には必要だ。

試験問題は次に続く。

二　次の文章を読んで、後の**問一**～**七**に答えなさい。

自他の併存の例として、ここで東洋と西洋の物質観をくらべることにする。

これまで、西欧の自然科学は人間主体であり、人間の生活の向上だけを追求する経過を辿って来たので、その意味では自分本位であり、これは「自」の立場であったと言える。

しかし、別の見方をすると、西欧の科学は普遍性を第一に尊ぶものである。すなわち、個々の「自」が持つ個別性を超えた、全体の普遍性に注目し、これを求めるところに特長があるとも言える。そういう意味では西欧の科学は普遍性追求の学であり、東洋の自然観はこれに対して個々の存在を尊重するものとしてよい。前者が何故そういう立場になったかというと、普遍の成分を求める分析に依存したからであり、後者は、全体を「個体」として見る総合観に立ったからである。対比の上の言い方をすれば、［　X　］とする見方も出来るのである。ともかく、以下の論では、この視点で東洋と西洋の比較をして見よう。

西洋の自然観は基本的には、「物事はすべて成分から出来ている。それで、対象の事物を成分に分解し、それを構成する要素を知る」ことが自然の理解であるとする。この要素で物を見る立場を分析（analysis）という。解析というときもある。これもanalysisである。analysisという言葉を最初に唱えたのは、ボイル（Robert Boyle. 1627–1691）である。この人は英国の貴族の生まれで化学者、物理学者とされる。彼はアリストテレス以来の元素観が、単に観念的に自然の要素を考えるのを斥けて、元素を分解の極限物質、つまり、これ以上は分解しえない物質と定義して、物質の相違は元素の違いや、運動の違いに基づくとした。そして、正確な実験によって得られる知識のみを「知識」とすべきであるとした。これは実証主義であり、これが近代化学の出発になったとして、彼は近代化学の父とされる。

これに対して東洋では上記のように、物をそのままあるがままに認識する態度を採る。これを総合的という。少し違う感じがあるが帰納的ということもある。帰納は演繹にも対比される言葉である。

「分析と総合」で西洋と東洋を対比する見方は、一面ではなるほどと同調できるが、また他面ではそうともしきれない。A対比は結構だけれども、両者ともそれぞれ簡単に割り切れるものではないからである。

自然界の事柄はこの両者のバランスが自ずから取れている。逆にこのバランスが維持されてはじめて自然界の運行が正しく行われるのである。

ところが近来、人の生活や、心情にこのバランスが失われて来ているのではないかと憂慮されるのである。

今の教育は全面的に解析の流れになっている。それで、全体観を養う場を失なっていることが懸念される。解析のみであると細かく細かく細部に突

き進んでいって、しまいには何が何だかわからなくなる恐れがある。昔の諺に、［　Y　］ということがある。それは、解析の行き過ぎをたしなめる言葉である。

総合というのは、経験で得られた知識を総合的にまとめて判断することをいう。その経験を持つには、時間と手間がかかるし、本人が自分で体験して知るべきことで、教えて教え得るものではない。それで教育するほうも、されるほうも「解析」のほうがやり易く、どうしても、解析に走り易い。とくに学校教育は、体系的知識の積み上げで進める方式をとるので、文句なしの体験を第一にする昔の職人教育をハイゲキするのでその傾向が強い。それで、近代社会は解析に強い人で埋まる状況になり、結果の評価を総合判断で行うことはほとんど無くなってしまった。運動競技すら、走る時間、泳ぐ時間で結果が表示されるようなメイリョウな判定が可能な場合以外はそうなったのである。アイススケートの演技や、飛び込み、その他の美術要素が入る競技では、技術と演技の芸術性などという分岐をつくって、その各々の評価を段階的な数字にあらわして、それを何人かの人に評価してもらって、その平均を評価にしている。解析操作を取り入れている。現代はこうして解析で埋まることになった。Bこれが行きすぎると困ることである。

なぜかというと、解析は成分を抽出する作業であるので、それのみに終わると全体の総合評価ができないからである。

解析と総合の間には、さらに重要な相違がある。それは、両者における「時間」のとりかたの違いである。

「解析」の場合は、解析をする人が対象に接するのは解析の間だけである。解析を終えて結果を提出すればおわりである。そういう意味では、問題に接する時間はその時限りの一過性である。これに対して、「総合」の場合は、対象に接する時間は持続的長期的である。前者においては、対象との接触は解析をしている間しかない。なぜなら、対象は解析されたあとは、刻まれて原体は形をとどめていないからである。すなわち、解析の評価はそういう意味で瞬間的である。これに対して総合観は、色々な視点で、かつ長い時間軸で観察して、対象物の評価をする。

物事の評価には後者のやり方も必要である。例えば、人間の生長を測定し、その将来に関わる教育はことにそうである。この視点が近来失われつつあり、重要な問題だと思う。

総合観は「もの」を全体とりまとめて一つに見る見方である。すなわちその物自体を一つの存在として認めるのである。だから、それは「自」を尊重する見方といってよい。それに対して解析の態度は、物事すべてに共通の成分の存在を考え、そういう成分を明らかにしよう、物事はは成分が分かればそれから合成できるという考えかたである。共通、普遍のものを考えるという立場は個別の反対を見る立場であり、自他の言い方でゆけば他を見る立場と言えるであろう。そういうことで東洋は自、西洋は他ということになる。また、東洋は全体観、西洋は元素観に立つと言ってもよい。

ともあれ、解析と総合は相反するものである。両者のバランスをとるのがむずかしいが、Cこの均衡をとることは極めて大切であろう。

（藤原鎮男『共生の思想――自他の衝突と協調』による）

問一　傍線部ア、イを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を含むものを、次の各群の ⓐ～ⓔ からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが［　12　］、イが［　13　］。

ア　ハイゲキ
- ⓐ 車のハイキ量を調べる
- ⓑ 自転車をハイシャクする
- ⓒ 優れた名優をハイシュツした劇団
- ⓓ 人事課にハイゾクされる
- ⓔ 赤字路線をハイシする

イ　メイリョウ
- ⓐ 病院でチリョウを受ける
- ⓑ 両者の差は一目リョウゼンだ
- ⓒ ガクリョウで生活を送る
- ⓓ 会社のドウリョウと出かける
- ⓔ キュウリョウ地帯を歩く

問二　空欄［　X　］に入る表現として最も適切なものを、次の ⓐ～ⓔ から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［　14　］。

- ⓐ 前者が「普遍」、後者が「個体」
- ⓑ 前者が「他」、後者が「自」
- ⓒ 前者が「成分」、後者が「全体」
- ⓓ 前者が「総合」、後者が「分析」
- ⓔ 前者が「西欧」、後者が「東洋」

問三　傍線部A「対比は結構だけれども」における「だ」と同じ意味・用法で「だ」が用いられているものを、次の ⓐ～ⓔ から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［　15　］。

- ⓐ 彼は試験を受けるのをやめたそうだ。
- ⓑ その本は読んだことがあった。
- ⓒ 彼の泳ぎはまるで河童だ。
- ⓓ そのような発想は打算的だ。
- ⓔ とんだ災難にあってしまった。

問四　空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 16 。

ⓐ　鶏口となるも牛後となるべからず
ⓑ　重箱の隅を突つく
ⓒ　木を見て森を見ず
ⓓ　群盲象を撫でる
ⓔ　羹に懲りて膾を吹く

問五　傍線部B「これが行きすぎると困ることである」とあるが、こう述べる筆者の意図の説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 17 。

ⓐ　筆者は、解析で埋まることが行きすぎてしまうと時間と手間をかけて判断する人がいなくなると予想している。
ⓑ　筆者は、スポーツの世界にまで解析操作が入りこんでしまっている現状は行きすぎであるとして批判している。
ⓒ　筆者は、知識を重視する学校教育が行きすぎて体験を重視する職人教育が駆逐されてしまうのを憂慮している。
ⓓ　筆者は、平均値による評価が行きすぎてしまうと評価そのものに意味がなくなるのではないかと心配している。
ⓔ　筆者は、解析操作ばかりに終始してしまって結果を総合的に評価することができなくなることを危惧している。

問六　傍線部C「この均衡をとることは極めて大切であろう」とあるが、その理由の説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 18 。

ⓐ　解析と総合は相反するもので、両者のバランスをとるのがむずかしいからこそ、そのバランスをとることが評価されるから。
ⓑ　そもそも自然界の事柄はおのずと解析と総合のバランスがとれているものであり、両者相補うことで広く深く考えられるから。
ⓒ　解析が西洋にあたり総合が東洋にあたる以上、両者のバランスをとることは世界平和のためにも非常に重要なことであるから。
ⓓ　解析操作には多くの人数が必要となり、平均を取るためにはある程度のバランスをとって総合化を図らなければならないから。
ⓔ　短期的な解析と長期的な総合との間でバランスをとることができれば、短くもなく長くもないちょうどよい時間になるから。

問七　本文における筆者の考え・主張と**一致しないもの**を、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 19 。

ⓐ　ボイルは東洋の「総合」に対抗して「分析」という方法を用いることで、物質の相違は元素の違いや、運動の違いに基づくとする実証主義を確立し、近代化学を出発させ、近代化学の父と呼ばれるようになった。
ⓑ　「分析」と「総合」というそれぞれが拠り所とする立場の違いで西洋と東洋を対比しようとすることは、ある面では納得できる見事な対比ぶりを示すものの、それぞれ簡単に割り切れるものではないはずだ。
ⓒ　知識を総合的にまとめて判断するために必要な経験を持つには時間と手間がかかり、またそれを他人が教えようとしても教え得るものではないので、教育現場ではおのずと「分析」という方法を選ぶことになる。
ⓓ　アイススケートなどの競技では、技術と演技の芸術性などに分けた評価を何人かで行い、段階的な数字にあらわしたものを平均化する形で評価を実施しているが、これもまさに現代の解析操作の一例である。
ⓔ　東洋的総合観は「もの」を全体とりまとめて一つに見るという点で全体を「個体」として見る全体観に立つとも言えるが、個別のものそれ自体を一つの存在として見るという意味では「自」の立場と言える。

三　次の文章を読んで、後の**問一**～**七**に答えなさい。

ついさきごろのことだが、われわれの地球を一瞬の間に閉じこめる皆既日食がおこった。世界のジモクを集めたこの宇宙ショーは日本で四十六年ぶりとのこと、そして次回に同じ現象の生ずるのが二十六年後なのだという。

その黒い太陽の出現をテレビで眺めながら、私は二つの物語を思いおこしていた。一つは、いまから三千年ほど前に書かれていたインド古代の物語である。ヒンドゥー教の神話や仏教説話の中で語られてきた話だ。

かつて神々とアスラ（阿修羅）、すなわち悪魔たちの間で、不死をもたらす甘露（アムリタ）をめぐってはげしい争奪戦が演じられた。このとき神々の側にたってたたかったのが太陽神と月神。それにたいしてアスラ側に回ったのがラーフという名の悪魔で、これが太陽と月を腹中にのみこんでしまう。だが最後になって神々が勝利し、悪魔は空や海に逃げ去った。

このインド古代における皆既日食の神話が、不思議なことに仏教誕生の物語と結びつけられたのだから驚かされる。ブッダは十六歳で結婚し、妻とのあいだに男子を恵まれた。ところがかれは何を思ったのか、この二人の愛の結晶であるわが子に「ラーフラ」という名を付けた。ラーフラとは、さきの「ラーフ」（悪魔）からの派生語で、古代語のサンスクリットでは日食、月食の「食」を意味する言葉だった。太陽と月の光を覆い隠すものを指し、それが同時に「悪魔」を意味するようになったのだった。

ブッダはなぜ、わが子に「悪魔」という名をつけたのか。真相はいぜんとして歴史の闇に隠されているというほかないが、しかしそのラーフラはやがて父ブッダの教えに導かれて仏弟子の一人「羅睺羅」（音写語）へと転生することになる。とにかく、A これはこれで、皆既日食という宇宙ショーの背後に横たわる苦悩する人類史のひとこま、ということができるのではないか。

もう一つ、私が思い出していたのが落日の光景である。太陽が西の水平線に沈み、東の空から月がのぼってくる、あの何の変哲もない現象のことだ。かつてインドや中国、そして日本の仏教徒たちはその落日のかなたに浄土をイメージし、現世のわずらいや障害からの脱出を夢見てきたことを思いおこす。その心の遺伝子だけは、何も仏教徒にかぎらずこの日本列島人の意識の底にはりついていたことに気づく。落日をみて感動の思い出を語る人間は、いまなおあとをたたないのである。

話は変わるが、一九九七年（平成九年）十一月上旬のことだった。私はあわただしくアメリカのヒューストンに飛んだ。スペースシャトルに乗り込んで、日本人初の「宇宙遊泳」に挑戦する土井隆雄さんにお目にかかり、お話をうかがうためだった。

知られているように今日、「国際宇宙ステーション」計画が最後の段階を迎え、人類による宇宙での長期滞在が始まろうとしている。その未知の経

験はかならずやわれわれの人生観や世界観、さらには美意識や芸術感覚にまで大きな影響を与えるにちがいない。そこからどのような課題が生ずるか、そのための予備的な研究が十年ほど前に宇宙開発事業団（当時）の委託で、関西にある国際高等研究所でおこなわれることになった。たまたま私はその一つのグループの座長をつとめることになり、その縁で急きょヒューストンに出張することになったのである。

広大な敷地を持つジョンソン宇宙センターの近くに、日本の宇宙開発事業団の事務所があった。まさに搭乗直前の、ギッシリつまった訓練日程の合間をぬっての面談だった。冒頭土井さんは、子供のころから天体や星座を観測し、宮沢賢治に関心をもっていたといわれた。「雨ニモマケズ」や「銀河鉄道の夜」が好きだと胸のうちをもらされたが、話が宇宙イメージへと転じたとき、宇宙は目的をもって創られたものであり、その全体が神のようなものに感じられるといわれた。Bその発言が、私にはとても新鮮なものに思われたのである。

それというのも以前から、アインシュタインのある言葉が気になっていたからだった。かれは宇宙には「中心」のようなものがあるとどこかに書いていたのである。むろん私はかれの相対性理論については何の知識もない門外漢である。けれども時間的にも空間的にも「相対的」であるはずのこの宇宙に「中心」があると感じているらしいかれの思考方法が、私には面白かった。アインシュタインはその中心をさすがに「神」とは呼んでいなかったが、しかしかれのいう「中心」はかぎりなく「神」に近い概念ではないかと、勝手に思っていたのである。

宇宙には中心が存在するという見方の背後には、ひょっとすると一神教的な思考の反映がみとめられるかもしれない。それにたいして、土井さんのいうように宇宙の全体が神のようなものに感じられるというイメージの奥には、万物に生命をみとめる汎神論的な思考の片鱗が宿っているのではないだろうか。現に、こんどの皆既日食の宇宙ショーをホウドウする場面でも、それを［　X　］ととらえる声や言葉が躍っていたのがとても印象的だったのである。

むろんこのような大ざっぱな比較だけで、何ごとかを客観的に言い立てようなどとの目論見が私にあるわけではない。ただ、さきほどのアインシュタインの言明にもどっていえば、相対性という科学的認識と長い人類の歴史を経て受けつがれてきた文化的イメージとのあいだには、つねに変わらぬギャップが横たわっているのではないか、ということをいってみたかったのである。

いわば脳のレベルでは宇宙を相対的であると認識してはいても、しかし感覚のレベルではかならずしもそうはならない。そもそもコスモスには「中心」があるべきだ、とする、C文化遺伝子のようなものが作動する場合だってあるにちがいないのである。

ヒューストンからの帰路、私は米航空宇宙局（ＮＡＳＡ）が発行している「宇宙開発・ＱアンドＡ」という小冊子を手にしたが、読んでいて驚いた。アメリカが宇宙開発を進める目的には二つある。一つは科学の進歩のため、もう一つが金のためと書いてあったからだ。

はてさて、日本人ならこれに何と答えるか。科学の進歩のため、に異論を唱えるものは一人もいないだろうが、しかし金のため、とはおそらく誰も

口にはしないであろう。そこではやはり、［　Y　］、という例によって口あたりのいい答えが返ってくるのではないだろうか。

（山折哲雄『危機と日本人』による）

問一　傍線部ア、イを漢字表記に改めた場合、これと同じ漢字を含むものを、次の各群のⓐ～ⓔからそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが［20］、イが［21］。

ア　ジモク
ⓐ ジダンが成立する
ⓑ 契約に印鑑をジサンする
ⓒ 上司にジヒョウを提出する
ⓓ ジビ科で診察を受ける
ⓔ ジゼンの策を講じる

イ　ホウドウ
ⓐ 先生からシドウを受ける
ⓑ 娘の旅行にドウコウする
ⓒ 学問のオウドウを行く
ⓓ ドウサツ力が要求される
ⓔ カドウ式の書棚を作る

問二　傍線部A「これはこれで、皆既日食という宇宙ショーの背後に横たわる苦悩する人類史のひとこま、ということができるのではないか」の説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［22］。

ⓐ 皆既日食という宇宙ショーを眺める人間は古代からいて、インド古代の神話などはその背後に人類の苦悩を横たえさせている、ということ。
ⓑ 皆既日食という壮大な宇宙ショーは有史以来何度も繰り返されてきたが、その長い歴史の傍らに人類の歴史も流れてきたのだ、ということ。
ⓒ 皆既日食という現象は人類誕生の前から繰り返されてきたが、それを宇宙ショーとして眺める歴史は人類が築き上げたものだ、ということ。
ⓓ 皆既日食という宇宙ショーを眺めながら、古来人間たちはそこに自らの苦悩を重ねて神話や物語を生み出してきたのだ、ということ。
ⓔ 皆既日食という宇宙ショーの背後には、苦悩しながら偉大な宗教を切り拓いたブッダという人間の歴史が横たわっている、ということ。

問三　傍線部B「その発言が、私にはとても新鮮なものに思われたのである」の説明として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［23］。

ⓐ 土井氏の言葉の中に、宇宙には「中心」のようなものがあるというアインシュタインの言葉と共通する一神教的な感じ方がうかがえたことが、筆者には新鮮だった。
ⓑ 宇宙開発の最先端の場に立っている人物の口から宇宙に神の意志が宿っているというおよそ非科学的な発言が出てきたことが、筆者には驚くべきことだった。
ⓒ 宇宙開発の最先端の場に立っている人の宇宙イメージを作り出していたものが宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のイメージだったことが、筆者には新鮮に思えた。
ⓓ 宇宙開発の土井氏にも物理学者のアインシュタインにも共通して、科学認識と裏腹の文化的なイメージがあることが、筆者にはとても興味深く思われた。
ⓔ アインシュタインの言葉に対して、土井さんがはっきりと宇宙の中心というのは「神」のことにほかならないと言い当てたことに、筆者は大きな教示を得た。

問四　空欄［　X　］に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［24］。

ⓐ 人類の歴史
ⓑ 「神秘」のドラマ
ⓒ 世紀の天体ショー
ⓓ 宇宙のドラマ
ⓔ 神の「啓示」

問五　傍線部C「文化遺伝子のようなもの」に**当たらないもの**を、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［25］。

ⓐ 皆既日食の様子をテレビで見ながらインド古代の物語を思い起こすこと。
ⓑ 落日を見て、そのかなたに浄土のイメージを描いて現世のわずらいや障害からの脱出を夢見ること。
ⓒ 宇宙を目的をもって創られたものととらえ、その全体を神のようなものと感じること。
ⓓ 宇宙には中心のようなものがあると感じること。
ⓔ 皆既日食という天体ショーを神聖なものと感じてしまうこと。

問六　空欄［　Y　］に入る表現として最も適切なものを、次のⓐ～ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は［26］。

ⓐ 宇宙開発のため
ⓑ 国の発展のため
ⓒ 人類の夢の実現のため
ⓓ 文化遺伝子のため
ⓔ 宇宙の中心をさがすため

問七 本文における筆者の考え・主張と一致するものを、次のⓐ―ⓔから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 27 。

ⓐ ブッダがわが子に「悪魔」という名をつけた真相はいぜんとして謎ではあるが、皆既日食が明けるように、いずれ真相は歴史の闇の中から姿を現すだろうと思われる。

ⓑ 土井氏の場合、法華経を信じた宮沢賢治に対する関心から宇宙への夢が育まれたということが、その宇宙イメージの中に宗教的なイメージをもたらしたものと考えられる。

ⓒ 宇宙には中心のようなものがあると考えることと、皆既日食という天体ショーに接して神話を紡ぎ出してしまうような心性との間には、共通するものがあると考えられる。

ⓓ 西洋における相対性という科学的認識と東洋で長く受け継がれてきた文化的イメージとの間には、「一神教」対「汎神論」という大きなギャップがつねに横たわっている。

ⓔ 日本人が宇宙開発に対して口当たりのいい答えしか述べないことに比べれば、金のためと答えるＮＡＳＡの回答はいっそ潔く信用できるものであると言えるのではないか。